

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第47号

2006年4月28日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

1. 2006年日豪交流年記念第17回（2006年度総会）全国研究大会のご案内

開催日：平成18年6月10日（土）、11日（日）

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館（港区三田2-15-45）

電話：03-3453-4511（代）／03-5427-1596（メディア・コミュニケーション研究所）

担当：関根政美（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所）

研究大会・総会会場：東館6階G-SEC Lab／8階ホール

JR 山手線／京浜東北線 田町駅より徒歩8分

都営地下鉄浅草線／三田線 三田駅より徒歩7分

都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅より徒歩8分

※ 交通アクセスについては、別紙の案内をご参照ください。

URL: <http://www.mediacom.keio.ac.jp/access/index.html>

□6月10日（土） 第1日目

10:30 - 12:00 理事会（4階セミナー室）

12:30 - 13:00 受け付け（6階G-SEC Lab）

13:00 - 13:30 開 会 司 会 橋本雄太郎（杏林大学）

13:00 - 13:30 開会挨拶 「日豪関係の2.2世紀と日豪交流年」

関根政美（慶應義塾大学）オーストラリア学会代表理事

13:30 - 17:30 シンポジウムⅠ 「東アジアの統合と日豪関係の将来」（6階G-SEC Lab）

司 会 関根政美（慶應義塾大学）オーストラリア学会代表理事

13:30 - 14:30 基調講演 「オーストラリアから見た東アジアの統合と日豪関係の将来」

Alistair Murray McLean OAM（駐日オーストラリア大使）

14:30 - 15:30 討 論・質疑応答

Bruce Miller（オーストラリア公使参事官）

渡辺昭夫（東京大学）

山澤逸平（国際大学）

菊池 努（青山学院大学）

添谷芳秀（慶應義塾大学）

大庭三枝（東京理科大学）

永野隆行（獨協大学）

15:30 - 16:00 休 憩

16:00 - 17:30 総合討論

18:00 - 19:30 懇親会（オーストラリア大使館）

□6月11日(日) 第2日目

9:45 - 10:00 受け付け (6階G-SEC Lab)

10:00 - 12:00 一般個別研究報告

【第1分科会】 (6階G-SEC Lab) 司会 橋本雄太郎 (杏林大学)

「ゴートン政権期の核政策—核不拡散条約への署名決定過程を中心として」
佐藤江鈴子 (大阪大学大学院 博士課程)

「オーストラリアの安全保障政策における地域主義の台頭 1967-1974
—「豪・ASEAN 防衛協力」枠組みの形成過程に着目して」
山元菜々 (東京大学大学院 博士課程)

「オーストラリアにおける水利改革と環境資源保全」
加賀爪 優 (京都大学)

【第2分科会】 (8階ホール) 司会 安藤 充 (愛知学院大学)

「女性差別撤廃条約に関するオーストラリアのレポートについて」
安田純子 (郡山女子大学)

「新自由主義時代の「オーストラリアン・ファミリー」言説
—そのイデオロギー性とハワード政権の家族政策に関する考察」
藤田智子 (慶応義塾大学大学院 博士課程)

「オーストラリア多文化主義化の政治参加—イタリア系と中華系の比較から」
増田あゆみ (名古屋学院大学)

12:00 - 13:30 昼食 / 理事会 (4階セミナー室)

13:30 - 14:00 総会 (8階ホール)

14:00 - 14:15 休憩

14:15 - 16:45 シンポジウムII 「太平洋戦争をめぐる歴史認識と日豪関係」 (8階ホール)
《共催: 慶應義塾大学 21世紀 COE プログラム 多文化多世代交差世界の政治社会秩序の形成》
司会 鎌田真弓 (名古屋商科大学)

「太平洋戦争の公的記憶—豪戦争記念館を中心に」
鎌田真弓 (名古屋商科大学)

「豪軍事史における日本の表彰と記念行事への影響」
Steven Bullard (豪戦争記念館)

「豪学校教育における戦争の記憶の継承」 飯笹佐代子 (日本総合研究機構)

「豪文学作品にみる太平洋戦争の記憶」 加藤めぐみ (明星大学)

「カウラ脱走と日豪間の記憶」 田村恵子 (豪戦争記念館)

討論者 藤原帰一 (東京大学)

16:45 - 17:00 閉会挨拶 関根政美 (慶應義塾大学) オーストラリア学会代表理事

2006 年度オーストラリア学会全国研究大会 シンポジウム概要

【シンポジウムⅠ「東アジアの統合と日豪関係の将来」】

2006 年は、日豪友好協力基本条約締結 30 周年を記念した「日豪交流年」である。当オーストラリア学会は同志社大学における前年の総会で、2006 年度全国研究大会を日豪交流年の記念事業として実施することを決めた。それは、日豪両国のこの記念すべき機会を捉え、日本におけるオーストラリア研究の発展とその重要性の認識をなおいっそう広めようという決意でもあった。また、その実現が今後の日豪関係の発展の礎になると考えられる。

昨年の全国研究大会第 1 日目のシンポジウムでは、「日豪交流年」の認識を会員に共有してもらうため、「日豪関係の 30 年—日豪友好条約以後の日豪関係」と題して、過去 30 年間の日豪関係について討論した。基調講演をオーストラリア大使館ブルース・ミラー公使にお願いし、政治・経済・文化・教育面での両国関係の展開・変遷について体系的に論じていただき、討論をもった。出席された討論者や多くの会員から日豪関係の将来についてのコメントや質問が多く出されたため、学会理事会はあらためて日豪関係の将来について論じる必要性を感じ、本年度のシンポジウムを企画するに至った。

日豪友好協力基本条約が締結された 1976 年当時とは日豪関係をめぐる国際環境も大きく変容しているが、当シンポジウムでは、とくに中国の発展や東アジア共同体への動きを念頭におきながら議論していくことにする。と同時に可能であれば、日豪関係が複雑多岐にわたるものに変貌しつつあることも考慮する予定である。このために中国での経験が豊富な駐日オーストラリア大使マククリーン閣下に基調講演をお願いし、経済・政治・文化・教育の交流などさまざまな観点から議論を進めていくとともに、今後のオーストラリア学会の活動目標についても考えていきたい。

【シンポジウムⅡ「太平洋戦争をめぐる歴史認識と日豪関係」】

《共催：慶應義塾大学 21 世紀 COE プログラム 多文化多世代交差世界の政治社会秩序の形成》

オーストラリアにおける第 1 次世界大戦の公的記憶は国家のアイデンティティ創出の手段として大きな役割を果たしてきたが、昨今は太平洋戦争に対する関心が高まっている。オーストラリア国家の戦争体験として語られる太平洋戦争は、東部ニューギニアのポートモレスビー防衛戦と日本軍捕虜収容所での収容体験がその中核にある。他方、日本ではかつて日豪が交戦国であったことすら想起されないことが多く、太平洋戦争の記憶について日豪の非対称性は明らかである。

当シンポジウムでは、公的セレモニーや記念館、学校教育、文学作品などをとりあげ、オーストラリア社会で太平洋戦争の歴史がどのように再構築され、そのなかでオーストラリアや日本がいかに表象されているのか検証する。さらに、こうした集団的、公的記憶の構築プロセスが担う機能を再検討し、多文化社会における歴史認識のあり方を探る一助としたい。

また良好な関係を築いてきた日豪両国であればこそ、共有できない体験や感情をも可視化することによって、太平洋戦争の歴史を共有することが可能になるのではないだろうか。日豪交流年を機に、太平洋戦争の記憶を軸とした日豪市民間の理解と交流の可能性を提起できればと思う。

(当該共同研究は、りそなアジア・オセアニア財団より「調査研究・国際交流活動助成」を得ている。ここに記して謝意を表する。)

2006 年度オーストラリア学会全国研究大会
報告者および報告要旨

佐藤江鈴子

(大阪大学大学院国際公共政策研究科 博士課程)

「ゴートン政権期の核政策—核不拡散条約への署名決定過程を中心として」

オーストラリアが核不拡散条約 (NPT) に署名をしたのは、同条約が署名のため開放された 2 年後の 1970 年のゴートン政権期であった。オーストラリアはこの時期、核兵器開発の可能性も検討していたが、それにも拘らず何故、同政権は非核兵器国として署名したのか。本報告では、原子力平和利用の問題を基軸として、ゴートン政権による NPT 署名決定までの政策過程を検討することで、同政権の核政策を実証的に分析する。

山元菜々

(東京大学大学院総合文化研究科 博士課程)

「オーストラリアの安全保障政策における地域主義の台頭 1967-1974—「豪・ASEAN 防衛協力」枠組みの形成過程に着目して」

本報告では、1960 年代末から個別に進展したオーストラリアと東南アジア諸国との防衛協力プログラムが、徐々に「豪・ASEAN 協力」として定着していく過程に着目し、その背後にあるオーストラリアの安全保障政策の変化を考察する。特に、当時の英米の東南アジア政策、及び ASEAN の発展との関連に着目し、オーストラリア政府が変動する地域情勢への対応に苦慮する中、徐々に地域主義的な安全保障政策を打ち出していく様相を明らかにしたい。

加賀爪 優

(京都大学)

「オーストラリアにおける水利改革と環境資源保全」

オーストラリアの歴史的発展過程は、水資源の利用可能性に大きく規定されてきた。しかし、近年の急激な水資源開発は、河川からの過剰な取水を引き起こし、最大の灌漑用水源であるマレー河口に流水が届かないという断流現象を生じ、集水域において深刻な環境破壊をもたらしている。こうした問題に対して、1995 年 6 月に取水抑制政策が導入された。本報告では、この政策転換に伴う水利改革がもたらす環境経済的効果について論じる。

安田純子

(郡山女子大学)

「女性差別撤廃条約に関するオーストラリアのレポートについて」

女性差別撤廃条約は 1979 年に国連総会で採択された条約で、オーストラリアはこの条約について 1983 年 7 月 28 日に批准書を寄託している。締約国は条約実施状況に関するレポートを国連に提出し、それに対して SEDAW (女子差別撤廃委員会) が審議し、コメントを出している。オーストラリアは過去 4 回レポートを提出しているが、女性に関連した事柄の中で、これらの動きがあったことを示し、そのレポート審議について検討する。

藤田智子

(慶応義塾大学大学院社会学研究科 博士課程)

「新自由主義時代の「オーストラリアン・ファミリー」言説—そのイデオロギー性とハワード政権の家族政策に関する考察」

近年当たり前のように使用される「多様なファミリー (家族)」という言説。一元的なファミリー概念の押し付けを批判されてきた国家政策の側でさえも、その流れを汲むようになっている。しかしその背景には、戦略的な意図があった。本発表は、連邦政府の近年の家族政策における「ファミリー」言説の分析を通し、現代オーストラリアにおける「ファミリー」の政治的 (ポリティカル) な意味を明らかにする試みである。

増田あゆみ

(名古屋学院大学)

「オーストラリア多文化主義化の政治参加—イタリア系と中華系の比較から」

オーストラリアのエスニック・グループ (NESB) が行う政治活動の中で、オーストラリア政治への参加に焦点を当てた部分の研究の一つとして、イタリア系と中華系のグループを例にあげて比較を行ないたい。この比較分析によって、オーストラリアの多文化主義におけるエスニック・グループの位置の一考察を行い、また、最近の動向を踏まえた急速に変化をし続けるエスニック・グループの政治参加の意味についての考察も行うことを目指したい。

- ◆**宿泊先**：恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。
- ◆**昼食**：第2日目の昼食につきましては、大学周辺の店をご利用ください。
- ◆**出欠**：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、5月末日までにご投函ください。
- ◆**懇親会**：懇親会費は5,000円です。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。懇親会はマクリーン大使のご好意により大使館地下2階で行います。ただし、大使館の警備が厳しくなっておりますので、以下の点をご承知置き願います。事前に懇親会出席者の名簿を提出する必要から、同封の「大会出欠通知」葉書の懇親会出欠欄を必ずご記入いただきますようお願いいたします。大使館への入館がスムーズになされるようにするために、懇親会参加者には懇親会費納入時に**懇親会参加証**を発行します。なお、警備の関係から荷物検査等が実施されることをご了承下さい。また、写真付身分証明書をご持参下さい。呈示を求められる事があります。

2. 第2回地域研究会（関西）活動報告

報告：南出眞助

第2回研究会が2006年3月18日(土)、大阪府茨木市の追手門学院大学において行われました。発表はつぎのとおり。①堤純(愛媛大学)「メルボルン都心部の構造変容－GISによる社会経済データの分析」、②加賀爪優(京都大学)「オーストラリアにおける水利改革と環境資源保全」(司会：南出眞助)。参加者17名。前者はメルボルンにおけるアジア系留学生の急増に伴う構造変容について、後者はマレー川流域の稲作に関わる灌漑コストについての詳細な分析がなされ、いまオーストラリアが直面している「対アジア関係」が生々しく伝わってくる内容でした。豪日交流基金オーストラリア図書館の久松晶子氏からは、研究助成金について紹介がありました。

3. 学会費の納入について

本年度の会費を、同封の振込用紙でお振込みください。年会費は5,000円(賛助会員は10,000円)です。昨年度までの会費を未納の方は、未納分もあわせてお振込みください。

お問い合わせ：会計担当理事(安藤 充 andom@dpc.aichi-gakuin.ac.jp)

4. 大会報告者(海外在住者)への交通費助成のお知らせ

第13回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成(一律5万円)を行うことになりました(2001年12月18日第5期1回理事会決定)。前年11月末日までに事務局あて書面(メール可)にて、その旨事務局まで申し出てください。12月開催予定の理事会で申請案件を審議、決定をいたしますので、一般の個別報告の申し込み時期より前になります。ご注意ください。

5. 『オーストラリア研究』第19号投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』第19号(2007年3月発行予定)に掲載する論文を募集します。論文の締め切りは2006年8月末日。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2006年10月30日(期日厳守)。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだFD)をご利用ください。記入例は第15号(2003.3)を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

投稿・連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3同志社大学言語文化教育研究センター 有満保江気付
TEL: 0774-65-7070 Fax: 0774-65-7069 E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp

2005年5月より宛先が変わりましたので、ご注意ください

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

6. 国際交流基金主催—大洋州理解講座「オーストラリアを知るために」実施報告

国際交流基金主催の大洋州理解講座「オーストラリアを知るために」が、2006年1月19日から3月23日まで毎週木曜日夜、10回連続講座として東京都千代田区の日本教育会館で開催され、約70名の聴講生が参加しました。関根政美オーストラリア学会代表理事がコーディネータとなり、自ら講師を担当したほか、学会の竹田いさみ、森健、鈴木雄雅、有満保江、飯笹佐代子、橋本雄太郎、加藤めぐみ、鎌田真弓各会員（出演順）が交代で講師を務めました。毎回、講師の専門分野に即したテーマごとに、聴講生に解りやすい講義がなされ、盛況のうちに全日程を終えることができました。3月17日には豪日交流基金オーストラリア図書館の久松晶子氏のご好意で、大使館において理解講座終了パーティーも開かれました。聴講者、講師陣、学会員、主催者など100名を越える関係者が参加して親睦を深めました。

7. 学会主催の2006年日豪交流年記念事業に関するお知らせ

会報46号にてお知らせいたしました「2006年日豪交流年記念事業」のうち下記の2つの事業概要についてご案内いたします。

①名古屋記念事業

「東アジアの経済統合とオーストラリア」と題するシンポジウムが、2006年9月30日午後1時から名古屋商科大学伏見キャンパスにおいて開催されます。基調講演の後、グリフィス大学 Michael Wesley 教授、岡本次郎会員らによるシンポジウム、およびオーストラリア進出企業関係者によるシンポジウムを予定しています。

②大阪記念事業

「オーストラリア理解講座」（全10回）を追手門学院大学オーストラリア研究所との共催で、2006年9月28日から12月7日まで毎週木曜日夜（11月23日を除く）、JR大阪駅前「ハービス PLAZA」4階イベントルームにおいて開催します。

①と②の詳細なご案内については次号の会報でお知らせいたします。

8. 事務局からのお知らせ

《学会誌の最新号が届かない場合》

学会誌の最新号、『オーストラリア研究』第18号（2006年3月）が届いていない方は事務局へご連絡下さい。また、連絡先変更の場合は、お手数でも必ず下記事務局宛にご連絡下さい。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付
オーストラリア学会事務局 TEL: 042-691-0011(代) / FAX: 042-691-5899
E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

2005年4月より事務局が移転しましたので、ご注意ください

会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。(宛先: 鈴木 HAF00025@nifty.ne.jp / 田澤 ytazawa@dohto.ac.jp)

[編集担当: 田澤佳昭 (道都大学)]